

韓国住民(貧民)運動30周年ワークショップ 日程表

川島章平・加藤恵

昨年10月19日から29日にかけての10日間、韓国のソウルで行われた、韓国住民運動30周年記念ワークショップと LOCOA(Leaders and Organizers of Community Organization in Asia)会合に、日本からののじれんの仲間たちが参加した。のじれんではこの間、EAE(東アジア交流)プログラムなどを通じてアジアの住民運動との結びつきを深めてきた。日本ではまだ馴染みが薄いのが、コミュニティー・オーガナイズ運動はアジアで30年の歴史を持ち、今回の記念行事には、各国の貧困地域等に入り込んでコミュニティーを組織化してきたオーガナイザーたちを中心に100人以上の参加者が集った。以下ではその様子を報告したい。



10月24日(水) ワークショップ

グループセッション

19:30- 21:30

コミュニティーオーガナイズ(住民組織化)と自立運動セッション

出席者は、韓国のコミュニティー運動(老人施設、孤児院etc)で働いている人々など韓国側からは約30人と日本からの参加者7人。ホ・ピョンソプ氏による「教育」の重要性や、キム・ヨンジュン氏による、生活保護を受ける人を支援するスタッフのアイデンティティのあり方に関する話があり、これを基に討論が行われた。

10月25日(木) ワークショップ

全体セッション

9:30- 10:30

30周年議題総合確認

10:30- 12:00

韓国住民運動 Forum

3人の方がそれぞれのテーマに沿って話をされた。ホ・ピョンソプ氏(前韓国教会社会宣教協議会 都市住民分科委員長/現 無主生態村農夫)から「住民運動 30周年の意味」というテーマの話。シン・ミンホ氏(韓国都市研究所副所長)からは「住民運動-何がどのように変わらなければならないのか?」というテーマ。

パク・チョンニョル氏(前キリスト教都市貧民宣教評議会会長/サラバン協会牧師)は、「2世紀のCOの哲学(霊性)と方法論そして戦略戦術」というテーマで話をされた。

全体セッション

13:30- 16:00

アジア住民運動 Forum

白い民族服を着た牧師さんの「プリバダ!」の歌ではじまる。右を向いては日本語、左を向いたら英語、真中を向いたら韓国語という一人三役の活躍で、場は大いに盛り上がっていた。デニス・マーフィー(フィリピン)氏から、ACPOから LOCOAに至る歴史と意義、LOCOAのメンバーの紹介が行われた。その後、

アジアのCO(日本側は、コミュニティーを組織しようとしている山本さん(部落解放同盟大阪府連合国際部長/ACHR-JAPAN)と遠藤さん)から、各地の運動の紹介が行われた。具体的な地域は、インドネシア・インド・フィリピン・タイ・日本・パキスタン(発表順)である。

16:30- 18:00

韓国の伝統芸能サムルノリという踊りが披露された。



グループセッション

19:30- 21:30

ホームレス東アジア交流その後

まず日本側の当事者(市崎さんと遠藤さん)が、今回の韓国訪問(10月1日~)の感想を述べた。たとえば、シェルターの充実などを挙げ、東アジア交流後のコミュニティー作りへの取り組みを報告した。また支援の湯浅さんも、支援 当事者運動への転換を模索している旨報告した。それに対して、韓国側の当事者カンさんからは現在当事者(仲間)がお互い助け合う方法についてほかの当事者と話し合っていること、10月に共同で部屋をふたつ借りることができたこと、これからは野宿者・支援者ともに組織化することが重要であると思っていることなどが報告された。またスタッフ(CONET)の方からは、韓国では日本と比べて政府からの援助はある程度進んでいる(日本はない)が、行政運営のシェルターの中にも問題が見えてくるとのこと、一方当事者運動は日本ほど目立っていないことが報告された。